

取扱説明書

**電動パンチ
P-2003**

ご使用前に「取扱説明書」を必ず熟読してください。

なお、「取扱説明書」は大切に保管してください。

注意

	本機を、ぐらついたり傾いたりしている不安定な場所に設置しないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
	錐が回転している時は危険ですので、手や物は絶対に近づけないでください。
	穴あけ直後の錐は熱くなっていますので、さわらないでください。やけどの原因となります。
	紙以外の物、また、ステープラー針等の異物の付いた用紙などに使用しないでください。無理に穴をあけると、故障したり、けがの原因となることがあります。
	一度穴あけしたところを少しずらせて半欠きしないでください。故障やけがの原因となることがあります。
	錐の交換は電源スイッチを必ず切ってから、取扱説明書にしたがって行ってください。けがの原因となることがあります。
	使用後は必ず電源スイッチを切ってください。また、長時間ご使用にならない時は、安全のためプラグをコンセントから抜いてください。
	表示された電圧以外では使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。
	修理や分解は、感電や故障の原因となることがありますので、メーカーに依頼してください。
	お子さまの使用はさけてください。また、お子さまの手の届かない場所に設置してください。けがの原因となることがあります。

* 色彩及び形状などを変更する場合があります。

用途に応じたピッチをお選び下さい

穴数	ピッチ (mm)	規格
3 穴	108	USA 3穴
4 穴	57	B-5判 4穴
26 穴	9.5	B-5判 JIS26穴
30 穴	9.5	A-4判 JIS30穴
4 穴	70	A-4判 4穴
22 穴	12.7	コンピュータホール 26穴
2 穴	80	JIS 2穴
4 穴	80	4穴
1 穴	○	自由位置

定 格

外 寸	巾505 ^{mm} ×奥行345 ^{mm} ×高さ325 ^{mm}		重 量	12kg
モーター	電 源	交流50・60Hz、100V、75W	テーブル寸法	470 ^{mm} ×240 ^{mm}
	回転数	2800 r.p.m 3380 r.p.m	穴あけ能力	最大32 ^{mm}
コード	ビニールコード2m		穴あけ奥行	最大20 ^{mm}

附 属 品

錐6 ^{mm}	1 本	パラピン.....	1 個
錐外しレバー.....	2 本	オイルストーン.....	1 個
研磨器.....	1 個	ツールバック.....	1 個
千枚通し.....	1 本	クズトリ棒.....	1 本
保護板.....	5 枚		

ご使用の順序

錐を取付けて下さい

錐の太い方を上にして強く上方に差し込んで下さい。

かならずアジャストを

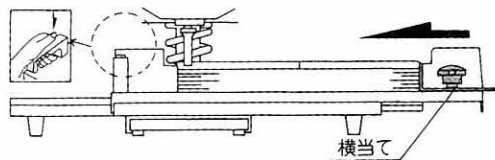
錐の取付けが終了と次にアジャストボルトを充分にゆるめ、錐の刃先がテーブル面の保護板（黒い矩形の板紙）に軽く喰い込むまでハンドルを降し、そのままアジャストがベースの面に当たるところまでボルトを強く締め付けて下さい。

クリップを開けて下さい

クリップレバーを下方に深く押すとプッシュレバーの働きでクリップが開いた状態でセットされます。

規格寸法の穴をあける時は

穴あけする紙を揃えてテーブルの目盛に左右均等に合せ、横当てで側面を固定してからプッシュレバーを押して下さい。（一回に穴あけ出来る紙の量は厚さにして32%以内です）次に左手でクラッチストッパーを下方に押えて右手でロットの右端をつまんで回転させ、ご希望の規格寸法の表示が上面にあらわれるまでまわして下さい。モーターのスイッチを入れ図のように左手でテーブルグリップを持ち親指でクラッチストッパーを押えながらテーブルを右端いっぱいまで移動させて下さい。そして親指を離しテーブルを左側へ静かに移動させると規定の位置でストップしますからハンドルを一気に降して下さい。あとはこの動作をくり返すだけで規定の間隔に穴あけできます。錐が短くなって正面当てがあたるような時は正面当てを上方にぬいてはらずにご使用下さい。



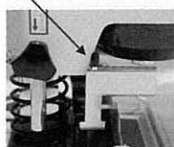
プロテクターの外し方

※安全のため、取り付け取り外しの際は、必ずプラグをコンセントから抜いてください。

①錐の取付け取外しの際は、プロテクターを外して下さい。



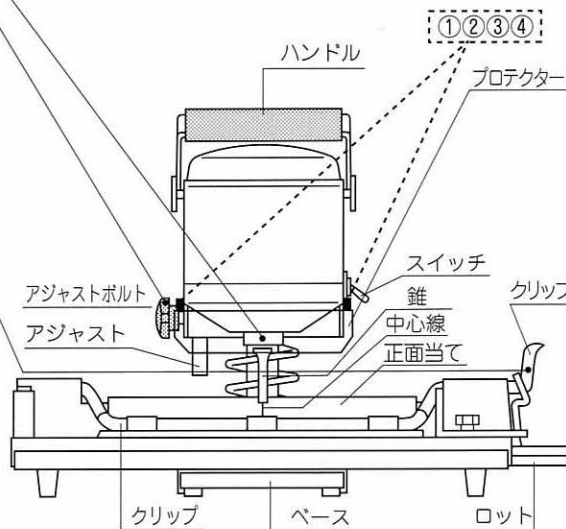
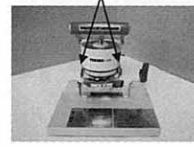
②キャップを上方向に抜いて下さい。



③錐の取付け後は、プロテクターの両端をはめてキャップを差込んで下さい。

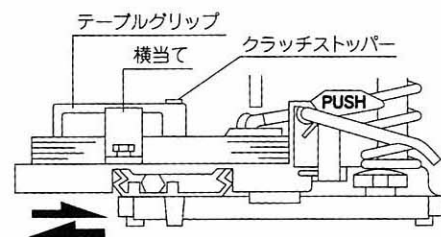


④安全の為プロテクターを必ず取り付けてご使用下さい。



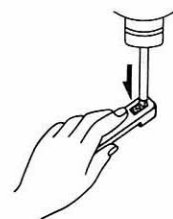
紙の縁から穴までの長さ

紙の縁にあまり接近しすぎたり、既にあけられた穴に近づきすぎると錐が縁や穴をつき破って進みますので曲ったり折れたりしますから最小3%位の間隔をとって下さい。紙の縁から穴までの寸法の調節はテーブルの締付ボルトをゆるめてテーブルを前後に移動させて適当な位置をきめてボルトを締め付けて下さい。

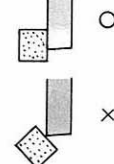


錐の研磨方法

スイッチを入れ図のように付属の研磨器を錐の刃先に真下から水平に上へ押し上げるようにあてると、ピーツと音がして瞬時に研磨は完了します。研磨したままでは錐の刃先にカエリが出ていますから付属のオイルストーンで錐を回転させたまま外周にそって取り去って下さい。



オイルストーンの使い方



屑を捨てて下さい

穴あけした屑はダストフードにたまりますが屑を排出するモーター軸が埋まる程たまると、屑の排出がスムーズにできなくなりますから早目に捨てて下さい。ダストフードを持ち上げると簡単にはずれません。捨ておいたらもとの位置に完全にはめ込んで下さい。

スイッチを入れ一気に穴あけして下さい

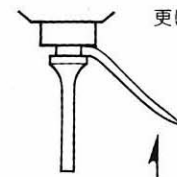
穴あけされる穴の位置がきまればスイッチを入れ途中でとめずに一気にハンドルを降して下さい。紙質によって多少違います約1秒で穴あけは終了します。

錐先より煙が出るようなときは

ハンドル操作を途中でとめたり時間をかけ過ぎたり無理な穴あけを続けると錐先より煙が出ます。さらに穴あけを続けようとするとう錐が折れてしまいますからこのような時はすぐ穴あけを止めて錐を外し千枚通し（付属品）で錐につまっている屑を完全にとり出して下さい。

錐の外し方

錐外しレバーの先端凹部を図のように錐の溝にはめ込んで上方にこじて下さい。錐は抜けても落ちないときがあります。更にこじるとレバーを痛めますからご注意下さい。一本のレバーではずれないときは二本のレバーを左右同時に使して下さい。



ご使用後は出来るだけ錐を外して下さい

穴あけ時に発生する熱によって湿気を呼び錐の差込部が錆びつきやすからご面倒ですがご使用後は錐を外して下さい。

紙の最後がキレイに切れないとき

錐によって保護板（テーブル面の黒い矩形の板紙）が凹んで痛みますから適当に裏返してご使用下さい。

錐の刃先を時々調べて下さい

やわらかな紙の穴あけにも重く感じたり、長時間のご使用時には時々錐の刃先を研磨して下さい。刃先の丸くなった錐をそのまま使用しますと折れる原因になります。

ご質問やご相談につきましては、下記の
相談窓口にお問い合わせください。

お客様相談窓口

- 東京 ☎(03)5820-2031
- 大阪 ☎(06)6946-3931

株式会社 **LIHIT LAB.**

本 社 〒540-8526 大阪市中央区農人橋1丁目1-22
TEL.06(6946)2525 FAX.06(6946)2525